

生徒の夢を叶えるために — 一人ひとりを理解し、信頼関係を築く

日本音楽高等学校 専任教諭

栗原朋子 (くりはら ともこ)

私は現在、東京都品川区にある「日本音楽高等学校」で専任教諭をしております。本校は、普通科幼児教育コース、音楽科音楽コース・バレエコース・舞台芸術コースの2科4コースの女子校です。朝から放課後まで、生徒の奏でる楽器の音色や歌声が響き、バレエ・舞台芸術を専門に学ぶ生徒も日々、舞台上に立ち練習を重ねています。私の担当は幼児教育コースで、生徒たちは音楽を大切にしながら、毎週、併設の保育園・幼稚園で行える保育実習を楽しみに学校生活に励んでいます。このように、生徒は夢を持ち、自分の好きなことを専門的に学び、教員も生徒一人ひとりの夢を叶えるための応援をしております。

私は幼い頃より、子どもと関わる仕事をしたいという夢を持っておりました。大好きな子どものことを、夢に向かって輝いている高校生に教えられる、この仕事は私にピッタリで、最高の職場に出会えたと思っております。高校生の頃より行ってきたボランティア活動では、多くの体験をしながらリーダーシップの取り方や協力する大切さを学びました。現在も、ボランティアグループを作り子どもの豊かな成長を支援するための取り組みを行っております。また、大学の心理学の講義で学んだ、人は何を感じ・どのように考え・どのように行動をするのかということ、また子どものこころの

発達については、幼児教育の授業ではもちろん、生徒指導でも最大限に活かすことができしております。このようにボランティア活動、そして大学時代に学んだ心理学の勉強が教員としての私の礎となっております。

現在は、高校3年生の担任をしております。生徒と面談を行う際は、その生徒に合わせて話しやすい雰囲気作りを心がけています。日常から生徒とじっくり関わることで、一人ひとりの生徒に合った環境を整え、生徒の夢を叶えるための手伝いができると思います。

また、幼児教育コースは校外での学習活動も多く、保育実習を行う併設の保育園・幼稚園、地域の児童センターへ生徒を引率して出向きます。保育実習では、高校生が子どもと関わるだけではなく、先生方や保護者、地域の方と関わる機会も多くあります。実際に現場に出ることで、生徒は学び成長することができます。

そして、当然ながら高校内で行う授業でも人間力をつけられるよう配慮しております。相手のことを思いやれる力、自ら考え行動する力……様々な力が世の中で必要となります。社会に出てから困ることがないように、高校生の間にできるだけ多くの力を身につけ

Profile—栗原朋子

2005年、実践女子大学生生活科学部生活文化学科卒業。実践女子大学教職・図書館学課程での助手を経て、2008年より現職。高校生の頃より「児童育成協会 こどもの城」でボランティアに従事。



生徒からパネルシアターでの誕生日祝い

られるようにしております。その際、大切なことは、生徒一人ひとりを理解することです。身につける力、伸ばす力は、生徒それぞれに異なるからです。大学の心理学で個人差や個性について学びましたが、教員という職業に就き、改めてその学習内容の重要性を再認識しております。

じっくりと生徒を理解し、耳を傾け、関わる機会を多くとることで、生徒と信頼関係を結ぶことが私の仕事です。さらに、生徒が卒業後も身につけた力を活かして、その子らしく輝くことが、私の喜びです。学生時代に学んだことを活かし、常に学ぶ気持ちを忘れずに、教員という職業を続けていきたいと思っております。